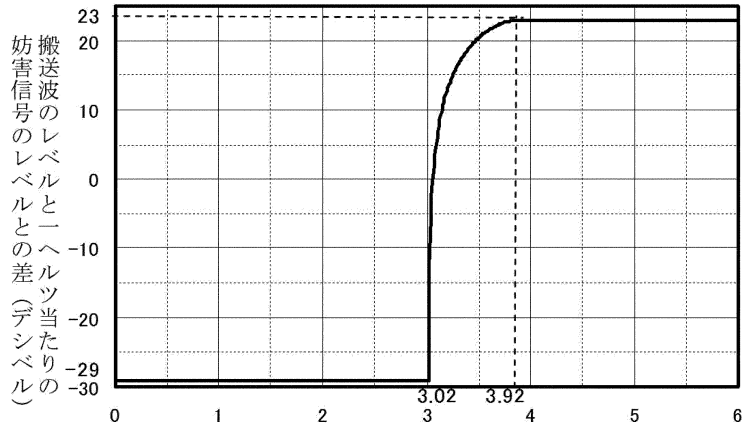
別図第四号　デジタル有線テレビジョン放送方式となっている有線テレビジョン放送等の上側周波数のスペクトルマスク

⑴　搬送波の変調の型式が六四値直交振幅変調である場合



搬送波の中心周波数と妨害信号の周波数との差（メガヘルツ）

注１　一ヘルツ当たりの搬送波のレベルの平均値を基準値（０dB）とする。

注２　スペクトルマスクの値は、次式のとおり。なお、搬送波の中心周波数と妨害信号の周波数との差（MHz）をf、搬送波のレベルと一ヘルツ当たりの妨害信号のレベルとの差（dB）をLとする。

・fが3.02MHz以下の場合：$L=-29$［dB］

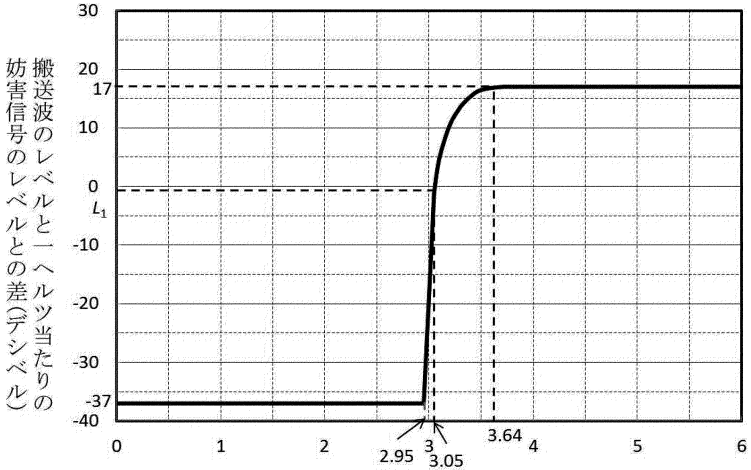
・fが3.02MHzを超え3.92MHz未満の場合：

$$L=23+20\log_{10}\left\{\sqrt{\frac{1}{2}\left(1+\sin\left(\frac{\pi}{2}\times\frac{2(f-6)+f_0}{\alpha\cdot f_0}\right)\right)}\right\}\quad［\mathrm{dB}］$$

なお、$f_0=5.057$［MHz］、$\alpha=0.18$とする。

・fが3.92MHz以上の場合：$L=23$［dB］

⑵　搬送波の変調の型式が二五六値直交振幅変調である場合



搬送波の中心周波数と妨害信号の周波数との差（メガヘルツ）

注１　一ヘルツ当たりの搬送波のレベルの平均値を基準値（０dB）とする。

注２　スペクトルマスクの値は、次式のとおり。なお、搬送波の中心周波数と妨害信号の周波数との差（MHz）をf、搬送波のレベルと一ヘルツ当たりの妨害信号のレベルとの差（dB）をLとする。

・fが2.95MHz以下の場合：$L=-37$［dB］

・fが2.95MHzを超え3.05MHz未満の場合：

$L=10(L_1+37)(f-2.95)-37$

なお、$L_1=17+20\log_{10}\left\{\sqrt{\frac{1}{2}\left(1+\sin\left(\frac{\pi}{2}\times\frac{2(f_1-6)+f_0}{\alpha\cdot f_0}\right)\right)}\right\}$［dB］とする。

ここで、$f_0=5.360537$［MHz］、$f_1=3.05$［MHz］、$\alpha=0.12$とする。

・fが3.05MHz以上3.64MHz未満の場合：

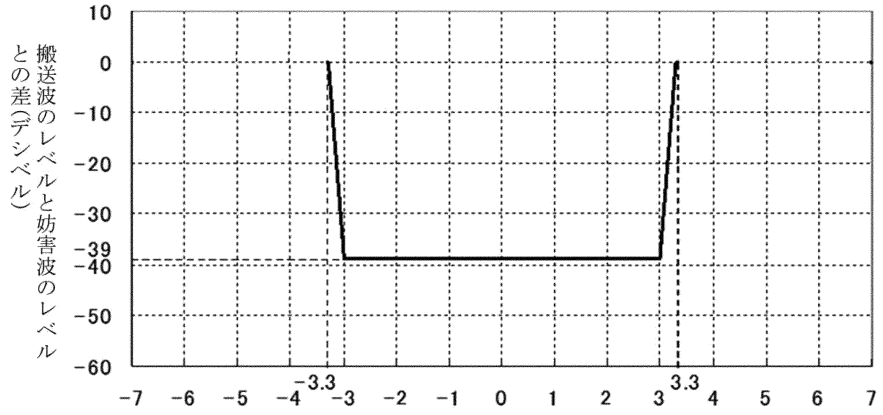
$$L=17+20\log_{10}\left\{\sqrt{\frac{1}{2}\left(1+\sin\left(\frac{\pi}{2}\times\frac{2(f-6)+f_0}{\alpha\cdot f_0}\right)\right)}\right\}\quad［\mathrm{dB}］$$

なお、$f_0=5.360537$［MHz］、$\alpha=0.12$とする。

・fが3.64MHz以上の場合：$L=17$［dB］

別図第五号　デジタル有線テレビジョン放送方式となっている有線テレビジョン放送等のスペクトルマスク

⑴　搬送波の変調の型式が六四値直交振幅変調である場合



搬送波周波数と妨害信号の周波数との差（メガヘルツ）

注　搬送波のレベルの平均値を基準値（０dB）とする。